

次期中津川市総合計画基本構想及び基本計画の素案に対する市民意見とその対応について

中津川市総合計画の策定の参考とするため、次期中津川市総合計画基本構想及び基本計画の素案について、下記のとおり広く市民のご意見を募集しました。

【意見募集の概要】

- ・意見提出対象者：市内在住・在勤・在学の方、市内に事務所または事業所を有する個人や法人その他の団体など、広く中津川市に関係のある方
- ・募集（閲覧）期間：令和7年9月1日（月）から令和7年9月30日（火）まで

【結果の概要】

- ・意見提出者数：22人
- ・提出された意見の概要

分類		件数
総論		6
基本構想	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	5
	5-2 人口の将来展望	3
基本計画	2-3 重点施策の取り組み	3
	政策1 心身共にたくましい子を育てるまちづくり	3
	政策2 住み慣れた地域で、自分らしく健やかに安心して暮らせるまちづくり	11
	政策3 さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり	3
	政策4 人々が学びや活動を通していきいきと暮らすことができるまちづくり	2
	政策5 支えあい、安全・安心に暮らせるまちづくり	1
	政策6 恵まれた自然を守り、生かすまちづくり	4
	政策7 商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり	3
	政策8 恵まれた資源を活用し、さまざまな産業が活発なまちづくり	3
	政策9 計画的に整備されたまちの中で、快適に暮らせるまちづくり	3
	施策10 持続可能で安定した行政サービスが受けられるまちづくり	2
合計		52

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
1	総論	全体的な意見として、計画が構想の言い直しになっていて具体的な取組みをイメージできない。	具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。
2	総論	地域ごとの特性活用について、13地区それぞれの課題・資源に即した施策展開を明記することが望ましい。「地域特性」に即した多様な戦略を実行し、地区間の格差を縮小すべき。	「施策3-5 移住・定住」において、中津川市の自然、文化などの各地域の資源を活用し、移住・定住を推進することと、「施策3-4 協働」において、地域課題の解決に向けた活動や、地域の特性を生かした取り組みなどを支援することを記述しています。
3	総論	数値目標（KPI）の明確化と実効性について、「住み続けたいと思う割合」等の満足度指標は良いが、施策との因果関係が見えにくい。人口動態、移住者数、事業所数など「客観的データ」をあわせて指標化すべき。	人口動態、移住者数、事業所数などの客観的な数値は、事業実施計画において指標として記載します。
4	総論	全体として抽象的で具体性に欠けている。	具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。
5	総論	満足度スコアの計算方法が分かりにくい。中津川市民の健康寿命のように一目でわかるような数値にしてほしい。	市民満足度スコアは、市民意向調査において実施した各分野における満足度調査のアンケート結果から産出しています。アンケートは「満足」から「満足でない」までの5段階で評価しているため、それらの意見をすべて反映するために市民満足度スコアを用いています。直接的な指標は実施計画で検討します。
6	総論	10年後には自動運転のタクシーなどが普及し、買い物や通院など高齢者にも優しい社会になっていると思う。ロボットの普及や、温暖化、国際情勢など不透明な事態もあるので、シナリオを一本に絞りこまず、多様な未来を描き、どんな社会になっても対応できる柔軟性が必要である。	計画の推進のために、基本計画「4-3 新しい時代の流れの活用」に定める通り、新しい技術や考え方を柔軟に取り入れ、多様化する市民ニーズに対応します。
7	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	<p>「WONDERFUL WOODs」はいいと思うが、「WATERs」を追加できないか。</p> <p>中津川市には豊富な水資源があり、森林資源以上のポテンシャルがある。</p> <p>水資源を入れることで、中津川水素産業クラスター構想※に示す実行策も考えられる。これにより、政策6「恵まれた自然を守り、生かすまちづくり」、政策7「商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり」、政策9「計画的に整備されたまちの中、快適に暮らせるまちづくり」をより支持、補強した構想にできるのではないか。</p> <p>再生可能エネルギーの活用が世界的な課題となっている現在、100年の運用実績を誇る木曽川の水力発電による水資源と電力資源を、次の100年に向けて「水素資源の地産地消による都市モデル」へと転換し、世界に先駆けて提案・実装することで、リニア開通の時点には、移住・定住、観光の面でも高い魅力を備えたまちづくりが実現できるのではないか。</p> <p>※「中津川水素産業クラスター構想」の添付あり。</p> <p>概要：既に中津川市にある地域資源・産業基盤を活用し、水素関連企業との連携や誘致を通じて、製造・活用・教育・雇用・発信までを一体化した「水素産業クラスター」を形成し、リニア中央新幹線の開通後は水素モデルを世界のエネルギー課題と接続する「実証フィールド」として位置づけ、国内外の技術・政策・産業との連携を加速させる「自然循環型水素先進都市」を目指すもの。</p>	<p>将来都市像の「WONDERFUL WOODs」の「WOODs」には、森林を育む水資源も含まれています。中津川市の豊かな水資源を最大限に活用し、環境や産業に生かすという発想、構想は将来都市像である「WONDERFUL WOODs」と合致し、包含されているものと考えます。</p> <p>提言いただいた「中津川市水素産業クラスター構想」につきまして、将来に向けた方向性の一つであると考えます。現段階においては水素産業に限定することなく、森林資源や水資源などの自然資源はもちろん、それ以外にも市が古くから守ってきた文化的資源やリニアの開通などによって新しく生まれる資源など、様々な市の資源を幅広く活用する中で検討していきます。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
8	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	将来都市像「WONDERFUL WOODs～ほどよいまち なかつがわ～」の方向性は、市民の愛着や自然資源を活かした発展を意識しており、共感できる。	豊かな自然や文化の中で、未来への期待にあふれ、自然体で居心地よく幸福に暮らすことができる将来都市像「WONDERFUL WOODs」の実現を目指して、計画を推進します。
9	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs ほどよいまち なかつがわ」は「ワクワクする里山 なかつがわ」がよい。日本語の方が親しみやすい。	「WONDERFUL WOODs」は、中津川市の目指す姿を象徴的に示す言葉であり、英語での表現も、これまでの中津川市になかった新たな挑戦を表すものです。 小中学生にもわかる英単語を使用して、分かりやすく、訴えかける力があり、市民や中津川市に興味を持った人の目を引く言葉といたしましたが、より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
10	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs」や「ほどよい」など、説明しなければ伝わらないキャッチコピーは変更すべきと考える。市民にとって分かりやすいことが最も重要だと考える。	「WONDERFUL WOODs」は、中津川市の目指す姿を象徴的に示す言葉であり、英語での表現も、これまでの中津川市になかった新たな挑戦を表すものです。 小中学生にもわかる英単語を使用して、分かりやすく、訴えかける力があり、市民や中津川市に興味を持った人の目を引く言葉といたしましたが、より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
11	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs」と副題の「ほどよいまち なかつがわ」の関連があまり読み取れない。中津川市は森林面積も多く、自然豊かで林業や木工業も盛んであることから、将来都市像は「WONDERFUL WOODs」のみとしてはどうか。	将来都市像「WONDERFUL WOODs」は中津川市の目指す姿を象徴的に表す言葉であり、副題の「ほどよいまち なかつがわ」は中津川市の目指す姿を説明した言葉です。 将来都市像について、より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
12	5-2 人口の将来展望	人口の将来展望、合計特殊出生率の市独自推計の数値について、現状とあまりにも違いすぎる。社人研の推計が現実的。この総合計画は2027年度からの計画であるため、「2025年1.61」はあり得ない。その後の数値もあり得ない。頑張れば実現可能な数字を示した方がよい。 市独自の将来人口の表の2025年の人口73,480人は、広報なかつがわによれば72,765人である。	「5-2 人口の将来展望」に定める目標将来人口については、中津川市が将来にわたって持続していくために必要となる合計特殊出生率、人口の移動率に基づき計算しています。 表に掲載している人口は、国勢調査に基づく推計であり、広報なかつがわに掲載している住民基本台帳に基づく人口とは異なります。また、人口の推計は2020年の国勢調査の結果を基に策定した「中津川市人口ビジョン」を基にしておりますが、表示する年度については検討させていただきます。
13	5-2 人口の将来展望	人口目標の実現可能性について、2036年に67,000人超という目標は挑戦的だが、出生数減少の構造的要因を考えると根拠が弱い。「移住・定住促進」「若年層の雇用創出」を具体的に組み合わせる必要がある。 政策の優先順位づけについて、多くの政策が並列的に掲げられており、リソース分散が懸念される。人口維持につながる施策（子育て支援・雇用創出・交通環境改善）を最重点にすべき。 「人口目標」達成のために 若者世代の定着・雇用 を最優先とすべき。	「5-2 人口の将来展望」に定める目標将来人口については、中津川市が将来にわたって持続していくために必要となる合計特殊出生率、人口の移動率に基づき計算しています。 目標将来人口の達成に向けて、若者世代に選ばれる中津川市となるために、まずは市の魅力を最大限に引き出す取り組みに重点的に取り組みます。
14	5-2 人口の将来展望	目標将来人口を67,163人と設定しているが、人口は日本全国で減少しており、自治体間で限られた人口の奪い合いになるのは避けるべきである。出生数の劇的な増加も見込めない中、人口はもはや目標とするべき数値ではないのではないかと考える。	人口の減少は、労働力不足や消費の縮小、担い手不足による地域コミュニティの衰退など、さまざまな問題の要因となり、持続可能な中津川市であるためには将来的に解決しなければならない課題です。人口が減少していく状況で社会を維持するために、一定の人口水準の維持を目標とするものです。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
15	2-3 重点施策の取り組み	人口減少・少子高齢化のスピードに対し、計画の実効性や優先順位づけが十分かどうか疑問である。 今後10年を見据えるにあたり、「選ばれるまち」となるためには、具体的かつ即効性ある施策を重点化すべき。	急速に進む人口減少・少子高齢化に対して、今後の10年を見据えて「選ばれるまち」となるために、前期基本計画においては、まずは市の魅力を最大限に引き出すことで、将来的に人口の増加につながると考えています。
16	2-3 重点施策の取り組み	35施策のうち6つの重点施策の絞り込みについて、市民アンケートに基づいて選択すれば、地域医療、公共交通、社会保障、雇用対策、居住環境、道路・橋梁となる。Web調査でも同様の状況であり、あえて入れるならば商業・公園・都市整備である。少なくともリニアと観光ではない。重点施策を選びなおして欲しい。	市民満足度調査において、満足度が低い項目の主な要因は、総合的に「人口減少」であると考えています。 各種人口の減少抑制、増加促進につなげるために、中津川市の魅力を高め、選ばれるまちとなることが必要であり、市民の希望に応えるために、前期基本計画では、市の魅力を高めるために取り組む分野を重点施策としています。
17	2-3 重点施策の取り組み	重要施策に観光やリニア、誘致が上がっているが、過去10年間のあいだにコロナ禍があり、インバウンド事業、観光業は世界情勢に大きく影響を受けることが分かった。基本構想、基本計画は、市の事業の背骨となる部分であり、外部の影響に大きく左右される観光や誘致、リニア事業を中心に事業を行っていくと、計画の中断、遅延が余儀なくされる場面が想定される。重要施策は農業や地域交通、人権問題等、普遍的な課題を置くべきと考える。また、市民アンケートを取ったにも関わらず十分に反映されていない。市民にとって重要度の高い地域医療や公共交通を最重要課題としてあげるべきである。	今後の10年を見据えて、市が重点的に取り組むべき課題は人口減少であると考えています。そして、課題の解決には中津川市が「選ばれるまち」となる必要があり、そのために、市の魅力を最大限に引き出す取り組みを重点施策としました。 市民満足度調査において、満足度が低い項目の主な要因は、総合的に「人口減少」であると考えています。 各種人口の減少抑制、増加促進につなげ、市民の希望に応えるために、前期基本計画では、市の魅力を高めるために取り組む分野を重点施策としています。
18	政策1 心身共にたくましい子を育てるまちづくり 政策3 さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり	グローバルな感覚とは、まず自国、自分の街を知るところからはじまる。国際化イコール外国を学ぶという短絡的な取組は間違っている。外国人に自国（地元）の成り立ちや歴史などを説明できることが重要である。	「施策1-2 教育」において、市民が参加する教育体制の整備を促進し、地元学習等を推進するとともに、「施策3-2 グローバル」において、外国籍の市民の地域内での交流を推進し、相互理解を推進することを記述しています。
19	施策1-2 教育	恵那市の給食について、週1回は恵那市の食材のみで給食作っているそうであり、増やしていきたいとのことである。地元の食材の給食は大切であり、食は子どもたちの健康の為に大切である。	「施策1-2 教育」において、児童・生徒が安心して、安全に楽しく生活・学習できる環境の整備を推進することを記述しています。 中津川市の学校給食では食材を選定、発注する段階で、できる限り県内産、市内産の食材を選定しています。
20	施策1-2 教育 施策5-1 防災・減災	災害リスクが高まっている。夏もかなり暑くなっている中で子供たちを暑さから守る為、暑い時は体育館で運動が出来るようにするため、また、万が一避難所が必要な時でも小、中の体育館のエアコン設置は緊急課題である。恵那市は小中の体育館のエアコン設置をした。子ども達の学びの環境を整える為にも、災害時体調くずす人が一人でも少なくする為に小、中学校のエアコン設置は至急やらなければいけない課題である。	「施策1-2 教育」において、児童・生徒が安心して、安全に楽しく生活・学習できる環境の整備を推進することを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
21	政策2 住み慣れた地域で、自分らしく健やかに安心して暮らせるまちづくり	健康で一番大事なのは食だと思う。その部分に触れた部分が少ないか全くない。予防医療との関連も考え、食をどの様に改善するか勉強が必要である。	「施策2-1 健康」において、関係機関と連携し、健康教育による健康意識の向上や食も含めたライフスタイルに対応した健康づくり、予防医療の推進により、健康寿命の延伸を推進することを記述しています。
22	施策2-1 健康	坂下診療所を19床の有床診療所として運営して欲しい。 市民病院は専門医不足を解消し、地域の中核病院として市民が安心して利用できる医療を確立して欲しい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
23	施策2-1 健康	坂下診療所を19床の有床診療所として運営し、市民病院は専門医不足を解消し、地域の中核病院として確立して欲しい。 具体的な進捗状況を市民に知らせていく施策を実施して欲しい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
24	施策2-1 健康	目指す姿では「誰もが便利に医療を利用することができる」とあるが、住んでいる地区では年齢を重ねるごとに「誰もが」から抜け落ちていくように思える。 坂下診療所を民営化し、本当に安心して過ごせるようお願いしたい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
25	施策2-1 健康	市民が安心して利用できる医療の提供とあるので、こうなるように取り組んでいただきたい。住民にとっては近くに入院することができる病院があることがとても重要である。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
26	施策2-1 健康	誰もが安心して医療を利用できるためには、医療機関が身近にあるのが一番大きな要因だと考える。そのため、地域にある顔なじみの開業医は、多くな役割を果たす大切な存在である。 内科、小児科、眼科、整形、透析があるため、広域に渡り安心は大きい。19床の入院ベッドが稼働すれば、なお安心となる。既存の設備を使用しないのはもったいない。 人口が減少していく中で、排除していくのではなく、開業医院も含めた今ある医療施設を大切に補修しながら残し、利用していき、中津川市内すべての医療機関のネットワークを立ち上げて、それぞれの得意分野を生かし、支え合う機関が必要ではないか。これからは助け合う中津川独自の新しい医療構想を全国に先駆けて実現すれば注目をあびる。今埋もれている人材も大切に生かしてほしい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めるとともに、地域の医療機関との連携強化に努めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
27	施策2-1 健康	坂下診療所の民営化が断念され、この先遠方の病院まで送迎してくれる家族もなく、身体が不自由だったり、病気の時にとてもバス、電車を乗り継いでいくことはできない。 この先のことを考えると不安である。病院機能の復活を断念したのであれば、19床の活用や、医師の確保をお願いする。一日も早く住民が安心して暮らせる医療の実現を求める。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
28	施策2-1 健康	<p>坂下診療所の民間譲渡に対しての23,118筆の署名をどうとらえて受け止めているか。中津川市の状況を見ると、1歩も進んでいないのではないかと。</p> <p>坂下診療所の19床を稼働を必ず実現してもらいたい。全国的にどこも病院機能が逼迫しているため、中津川市全体の地域医療の専門化を加えてプロジェクトを作って早急に進めてもらいたい。病気になっても地域の病院、市民病院で対応してもらえず遠い病院に行かされている状況である。公共サービス送迎を求める。</p> <p>総合計画の目指す姿、取り組みがカタチだけで終わらないように取り組んでもらいたい。</p>	<p>「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
29	施策2-1 健康	<p>「政策2 住みなれた地域で自分らしく健やかに安心して暮らせる街づくり」とあるが今後1人暮らし、高齢化が進むなか自分らしく生きていくには具体的にどうするのか。</p> <p>坂下診療所で回復期の入院が可能なことは大切である。今の中津川市の医療体制は高齢者、ひとり暮らしには問題が多々ある。</p> <p>中津川の人気の観光地馬籠その街道を支えている人の平均年齢は70代と書いた。次の世代に帰ってきてもらう為にも、近くの坂下診療所の病院化が必要である。</p> <p>今頑張ってる親の世代ももっと高齢になると介護が必要となる。仕事をしながら介護となると近くの病院の入院設備のある病院が必要である。馬籠、妻籠の観光地を守る為にも、そこで生活する人達が何かあったら近くで入院できる病院は緊急課題である。中津川地区の人にも回復期、慢性期の柱となる病院が必要である。</p> <p>四国の丸亀町商店街はメディカル通りを作り、安心、安全の街だということで近くの人口が増えていっているとのこと、岐阜市の柳ヶ瀬商店街もメディカル通り実現に向けて取り組んでいるようである。中津川の開業医も高齢化がすすみそのうち街から医者いなくなるという意見もあり、安心、安全の魅力ある街づくりの為に医療をどうするのが一番大切な問題である。今、精神を病んでいる子どもたちも増えている。大湫病院は予約がなかなか取れず電話もつながりにくいとのことである。よい精神科医、心理カウンセラーによる「子ども心の相談室」を坂下診療所に開設できれば坂下診療所にかかりたい子どもは多いと考える。</p>	<p>「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
30	施策2-1 健康	<p>いつまでも住み続けたい、住みやすい中津川市のために、「医療行政が充実している」「福祉全般が行き届くその関係機関を整える」「教育関係・環境を整える」「生活全般（物価など）が安定し、安心できる」ことが必要であると考えられる。</p> <p>特に、医療に関しては坂下診療所については民営化の決定をしていた事案は残念である。市民2万人以上の署名が集められたことは重いことであり、一番大切なことは何か考えていただきたい。</p>	<p>「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
31	施策2-1 健康	<p>坂下診療所民営化についての報告会に参加したが、残念な結果であった。今とても困難であるという条件も、すべて解消できると考える。</p> <p>地域に住む人々すべての健康と命が守られてこそ地域の発展はあるものだと考える。坂下地域、その周辺の人々の誰もが安心して医療を受けられるために、体制づくりを今後も続けてほしい。</p>	<p>「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
32	政策3 さ まざまな 人々が尊重 し合い、共 に活躍でき るまちづく り	<p>育成就労制度の導入に反対する。</p> <p>外国人労働者が増えることによる犯罪のリスクの増加、生活習慣や文化の違いによる地域住民との摩擦など、地域社会への影響が懸念される。地域の治安や調和を守るためにも、慎重な議論と地元の声を十分に反映させるべきである。</p>	<p>令和6年6月21日の法改正により、人材の育成・確保を目的とする育成就労制度が創設されました。</p> <p>「施策3-1 共生」「施策3-2 グローバル」において、新しく転入する外国人住民と、もともと地域に住んでいた住民が同じ地域社会の一員として安全・安心して暮らせるように、相互理解を促進するとともに、生活習慣や文化の違いによる摩擦を可能な限り低減できるよう取り組みを記述しています。</p>
33	政策3 さ まざまな 人々が尊重 し合い、共 に活躍でき るまちづく り	<p>安心して暮らせる街に共生の名の下に移行政策を行うのは間違っている。政策1と政策3の共生は相反している。なぜ外国人を受入れる必要があるのか。</p> <p>今日本各地で外国人問題でデモや抗議活動が市民から起きている。</p> <p>国の政策をそのまま取り込むと恐ろしいことになるのではないかととても危惧する。JICAのホームタウン構想は世論によって撤回されたが、名前だけ変えて実際には移行政策が進められていると言われている。今始まったことではなくもう何年も前からそうした動きがある。渋谷では道路を封鎖してイスラム信者がお祈りをするといった、日本人から見たら大迷惑な行いがある。すでに外国人比率が過半数になろうかとする自治体も出てきているらしい。日本人はとても優しい民族であるが外国人は根本的に違う。気を抜くと殺されるような国もある。そのことを知らずに移行政策を進めたらどんなことになるか恐ろしくなる。フランスをはじめ、すでに移行政策で失敗した国がたくさんある。その失敗を学ぶ必要がある。</p>	<p>「施策3-1 共生」において、新しく転入する外国人住民と、もともと地域に住んでいた住民が同じ地域社会の一員として安全・安心して暮らせるように、相互理解を促進するとともに、生活習慣や文化の違いによる摩擦を可能な限り低減できるよう取り組みます。</p>
34	施策3-3 人権	<p>重要施策の中に子育て・教育が含まれているが、大人の望む子どもの姿しか感じられず、子どもの意見表明権など、子どもの権利、意志が軽視されている。子どもの人権については国連からも指摘を受けており、どうすれば子どもの声を引き出すことができるのか、政策に反映することができるのか、子どもや弱者が自分らしく自己肯定感をもって過ごせるのか、誰にとっても生きやすい社会を目指していただきたい。</p>	<p>「施策3-3 人権」において、子どもを含むあらゆる人が人権の主体として尊重され、また、他者を尊重できるように取り組むことを記述しています。</p>
35	政策4 人々が学び や活動を通 していきい きと暮らす ことができ るまちづく り	<p>学びの喜びは具体的にどの様に感じられるのか。具体性を考えてほしい。</p>	<p>具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。</p>
36	施策4-2 文化	<p>子ども達が心豊かに育つ為に年に1回でも生の音楽に触れる機会があるとよい。恵那市はやっているそうである。芝居を見るも大事である。文化にふれられるだけでも市の姿勢をアピールできる。</p>	<p>「施策4-2 文化」において、芸術に親しむことができる取り組みを推進することを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
37	政策5 支えあい、安全・安心に暮らせるまちづくり	食料安全保障の観点の防災が無い。輸入依存度の高い食料事情を改善する対策を望む。	「施策8-1 農業」「施策8-3 畜産業」において、農業及び畜産業の持続可能性の向上を推進することを記述しています。 食料の輸入依存度等については国策として検討されるものと考えており、中津川市の総合計画に記載することは困難です。
38	政策6 恵まれた自然を守り、生かすまちづくり	ゼロカーボンが地球温暖化を改善するという前提を再検討していただきたい。世界ですでに前提が崩れている。真面目に対応しているのは日本だけという情報もある。日本各地でメガソーラーによる自然破壊が問題になっている。中津川市での法対応はできているか。リサイクルが本当にエコか検証したことがあるか。無駄がないか検証していただきたい。	「施策6-2 脱炭素」において、環境にやさしい持続可能な社会の実現を目指すことを記述しています。事業の実施にあたっては、その効果などについて検証を行いながら推進します。
39	施策6-3 生活環境	辻原地区への火葬場建設は周辺に住宅があるため不適である。辻原地区木曽川沿いに景勝の場所があるため、そちらのほうが理解を得やすい。現状だと、道路、河川整備に約26億の予定であるが、話を進めていく段階で地元同意を得るまでには大幅な増額が必要となると思われる。 懸念点として、ため池崩壊時のハザードマップ浸水地域に指定されているのと、現状の指定案ゾーン開発による水量の増加を加味すると、現状の予算より多額となること、周辺に住宅があること、地権者2名が反対していることがある。	「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。 具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。
40	施策6-3 生活環境	斎場の選定について、地域に事前に相談なく新聞で発表となったため、地域の合意ができていない。このため、地域内でも反対賛成に分かれており、今後地域が分断されていくことが予想される。 市の説明は「最新式の斎場」のハコの話だけで、地域住民に対する視点が全く欠けており、分断された地域社会に関するビジョンが全く提示されていない。 他市町村の火葬場を見てもほぼ例外なく道路の突き当りにあり、地域社会の中心である倶楽部の目の前かつ、周りから見下ろせる観光道路脇に検討しているのは明らかに異常である。他の市町村が行わなかった選択を価格が安いことを理由に選ぶ理由が分からない。当該地点は、ため池の下流に当たり、ため池が決壊した場合、この施設ができることで、周辺地区、民家に及ぶ影響が不明確であり、ハザードマップを軽視している。 通学する子供への影響や、今後の人口動態への負の影響など、わからないことが多すぎる。上記を含む環境アセスメントを全く行わないまま、20年近く選定できなかった地点をわずか1年程度で選定するに至ったのは、行政の勝手際以外なものでもない。行政の自己都合ばかりを優先した結果であり、全くもって不十分な取り組みと断定せざるを得ない。	「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。 具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
41	施策6-3 生活環境	<p>施策6-3に「市民に安心と安らぎ」とあるが、メモリアル施設が建設されたならば、近隣住民は日常的に霊柩車と喪服をまもわれた方を目にすることになり、安心と安らぎとは無縁となる。</p> <p>施策9-4には「将来にわたって暮らしやすいまちを形成するための土地利用の検討を進めることで、土地の適正な管理と利用を推進します。」とあるが、選定された土地はハザードマップによると、ため池決壊時に浸水する想定となっている。候補地横に営農研修センターがあり、床がたわんでおり、建て替えを切望するほどになっている。候補地選定理由として「ライフラインが整備されており、造成が容易で、地形的に立地しやすい」とされているが、候補地は長年水田として利用してきた土地であり、火葬場の重さに耐えられる地盤であるか確認されているか疑問である。例えば造成が容易であっても、建てた建物が浸水する、たわんで傾く可能性のある土地を火葬場にすることというのが果たして土地の適正な利用と言えるか。</p> <p>住民は、田園風景を守りつつ静かに暮らしたいというのが本音であり、今回のメモリアル施設建設候補地に選定されたという発表は災い以外の何物でもない。減反政策の最中にはいくつかの水田を野菜や果樹に転作してきたが、候補地が転作されることなく水田として残ってきた理由の一つとして、水田として優良な農地であったことが挙げられるように思う。農業振興地域でもある優良な農地を潰してまでもこの候補地にメモリアル施設を造る大義はあるのか。この候補地でなく、俗世を感じさせない、もっと静かで落ち着いた場所に建設すべきである。</p>	<p>「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。</p> <p>具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。</p>
42	政策7 商 工業や観光 業などが活 発で、市内 に活気がある まちづくり	<p>青木から新しい道路が伸び、すぐに新しい商業施設が道路周辺に建ちはじめた。道路計画の重要性を感じた。観光とも関連するが、道路、駐車場、渋滞など合わせて計画をしていただきたい。</p> <p>雇用に関しては政策1、政策3と関連して外国人受け入れは十分に注意していただきたい。カーボンニュートラルやこの点に関しては特に国策に流されていると感じる。本当に市民のためになるのか疑問である。インバウンドに関してもオーバーツーリズムで市民が大変困っているケースがある。そうならないような対策もセットで考える必要がある。</p>	<p>持続可能な中津川市のために、重点施策として観光、雇用に取り組みます。「施策7-5 観光」においては、地域住民の生活環境との調和を図ることで、持続可能な観光産業の活性化を推進することを記述しています。</p>
43	政策7 商 工業や観光 業などが活 発で、市内 に活気がある まちづくり	<p>観光と産業振興について観光振興だけでなく、地域資源を活用した産業連携が必要である。農林業×観光×教育のクロス分野で新しい付加価値を生む仕組みを検討してもらいたい。</p> <p>「観光・産業・教育」をつなげた新しい地域づくりに取り組んでもらいたい。</p>	<p>基本計画4章「4-4 さまざまな連携」に定める通り、様々な地域課題に対して、分野を横断して取り組みます。また、市の内部、外部を問わず、様々な主体がそれぞれの強みを活かし、つながりによる相乗効果を生み出すことで将来都市像の実現を目指します。</p>
44	施策7-3 雇用	<p>人手不足の職種は、労働環境や賃金などの構造的な改善が必要であり、外国人労働者に頼ることは一時しのぎに過ぎず、根本的な解決にはならない。</p> <p>外国人労働者の雇用よりも日本人、特に若い世代が働きたくなるような職場環境の整備や待遇改善を優先するべき。</p>	<p>「施策7-3 雇用」において、労働者が安心して長く働き続け、その力を発揮できるように、働きやすい環境の整備を推進することを記述しています。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
45	施策8-1 農業	<p>中津川市の特徴となる地場産業としての農業生産に取り組む必要がある。</p> <p>農産物の流通について、大型スーパー等による体制が一般化しており、また、東濃東部卸売市場が民営となり、農産物を生産しても売れない状況にある。</p> <p>恵那市のような、地元生産物から食のブランド化を進める為の施策が必要ではないか。</p> <p>農協が取り扱っているものしか計画に記載がない。</p> <p>特に坂本地区はほ場整備すらしていない農地がかなりの面積を有しており、用水路、頭首工等の整備を含めた攻めの農業基盤整備が必要である。</p> <p>農と食を結び付けた健康産業としての農作物生産に向かうことが必要ではないか。中津川市民の健康を推進するための攻めの農業を目指すべき。</p> <p>鳥獣害対策については、耕作放棄地の解消、里山林の整備を林業施策からも挙げてもらいたい。</p>	<p>「施策8-1 農業」において、農業のブランド化、特色ある農業の活性化を推進し、農業の持続可能性の向上に取り組むこと、適切な農地の保全と施設管理を実施し、農地の持つ多面的機能を守る取り組みを推進することを記述しています。</p> <p>数値目標では主要品目として生産量を把握できるものを代表として定めており、それ以外の品目についても取り組みます。</p> <p>「施策2-1 健康」において、関係機関と連携し、健康教育による健康意識の向上や食も含めたライフスタイルに対応した健康づくり、予防医療の推進により、健康寿命の延伸を推進することを記述しており、基本計画「4-4 さまざまな連携」に定める通り、様々な課題に対して、分野を横断して取り組みます。</p>
46	施策8-2 林業	<p>個人で管理できない人工林の整備について書かれているが、里山の雑木林、竹林の整備が最重要ではないか。人の入る里山づくりこそ「ワクワクする森」と考えると考える。里山の整備こそ重点施策ではないか。荒れ果てた里山では言葉遊びで終わると考える。</p>	<p>「施策8-2 林業」において、森林の多面的機能を発揮させるため、里山林の整備の推進も含めた森林の適切な管理を推進することを記述しています。具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
47	施策8-3 畜産業	<p>飛騨牛の表現は、肥育経営しか思い浮かばない表現となっている。飛騨牛では土地利用型農業である和牛繁殖経営、酪農では受精卵移植を活用した子牛生産を拡大、拡充することが重要である。</p> <p>酪農がかなり衰退している。酪農は新規就農するには2億円以上の初期投資が必要であるため、個人対応では非常に難しい。企業、団体等の出資による経営の創出が必要である。</p> <p>中小畜養豚、採卵鶏、ブロイラー経営等は、地元と結びついた経営とはなっていないが、加工など関連業種の発展が必要ではないか。</p>	<p>「施策8-3 畜産業」において、安定した経営基盤の構築の推進による持続可能な畜産生産体制を目指すことを記述しています。また、地域農業との連携を推進します。具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
48	施策9-3 リニア	<p>岐阜羽島駅の周辺整備では、開業されてから30年近くかかり、何とか見えるようになった。企業等の誘致も必要かもしれないが、まずは地元の人が集まり、講座、研修、運動等ができる施設をつくるとともに、まずは中津川市のみならず、恵那市等も含めた楽しい、かつワクワクする「道の駅」を整備することによるにぎわいを創出すべきだと考える。</p>	<p>「施策9-3 リニア」において記述しているとおり、区画整理事業により道路や駅前広場の整備や宅地の利用増進を図りつつ、利便性が高く、人々が集い、にぎわいが感じられるリニア岐阜県駅周辺の施設整備を行います。</p>
49	施策9-5 公共交通	<p>中津川市全体の地域交通について「木曽町地域公共交通計画」を参考にして計画案を作っていただきたい。</p>	<p>中津川市でも「中津川市地域公共交通計画（2018-2026）」を策定しています。現在、次期計画の改定中です。</p>
50	施策9-5 公共交通	<p>恵那市は65才以上の人に年間1万円のタクシーチケットが配布されているそうである。体調が悪く、病院に車の運転できない時や救急車で運ばれて自宅に帰る時も助かる。これだけでも市民の安心につながる。タクシーも台数が少なく、いつ来てくれるかわからない。夜中調子わるくても12：00～6：00までタクシーが1台も動いていない。</p>	<p>「施策9-5 公共交通」において、すべての人が利用しやすい交通網の構築を目指し、快適に住み続けられる環境の整備を推進することを記述しています。</p> <p>地域の特性に合った新たなモビリティサービスを検討し、各地域の拠点を結ぶ2次交通や拠点内を結ぶ3次交通の整備を推進します。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
51	施策10-1 広報・広聴	市民参画の強化について、市民に計画が十分に浸透していない点が課題である。計画策定・評価段階での市民参加の仕組みをさらに強化すべき。「市民参画」を強化し、計画の進捗・成果をわかりやすく発信すべき。	「施策10-1 広報・広聴」において、市民参加型の行政運営を推進し、市政の「見える化」を推進することを記述しています。 計画の推進のために、基本計画「4-1 計画の評価・検証」に定める通り、市民の意見をいただくことで事業の有効性や効率性を検証し、その結果を広く公表し、透明性の向上を図ります。
52	施策10-1 広報・広聴	<p>恵那市の良さを吸収して必要なことをサッサと実行する。良いところは真似るべきである。18才までの医療費の無料化は中津川より早く実現した。きっかけは面談で出た要望を実現したと聞いた。「小栗市長との語る会」の注意事項のひとつに「要望は出さない。」とあった。要望を聞かなければ市民の思いを市政に生かせない。その点も恵那市と違う。「恵那市の方が行政サービスがいい、中津川市は恵那市と合併して恵那市になればいい」という意見がある。</p> <p>「市が行っている取り組みの認知度が低く周知不足を解決する必要がある」とあるが、市民の声をきこう市民に伝えようという姿勢は乏しい。そういう思いが伝わらない。そもそも聞く気がない。今回のパブリックコメントも本当に聞く気があるのか。もっと工夫すべきで。そうでないと恵那市が良いという若い人が増えいく。</p>	「施策10-1 広報・広聴」において、市民の声を聴く仕組みを設け、いただいた意見などとそれに対する市の考えや対応を公表するなど、市政の「見える化」を推進することを記述しています。